

令和2年1～12月 近江八幡市内の交通事故発生状況

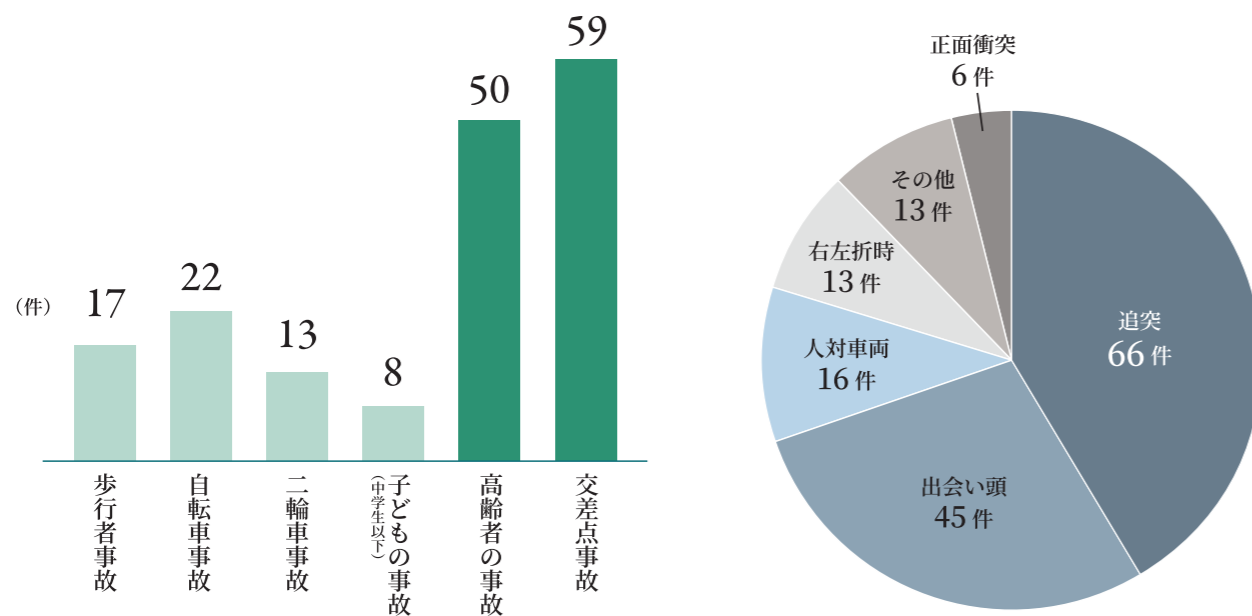
昨年一年間の市内での事故発生状況をご存じですか。件数は前年より減少していますが、依然として悲惨な交通事故が後を絶ちません。自動車・バイクなどの運転者だけでなく、自転車利用者や歩行者も交通ルールやマナーをしっかりと守り、お互いを思いやる気持ちやゆとりを持って、日頃から交通安全を心掛けましょう。

発生件数、負傷者数、死者数ともに前年より減少

事故発生件数 **159** 件 (前年比 -97 件) ▼ 死者数 **4** 人 (前年比 -1 人) ▼

負傷者数 **200** 人 (前年比 -129 件) ▼

高齢者の事故や交差点での事故、追突事故の割合が多い



近江八幡警察署からのメッセージ



近江八幡警察署交通課企画規制免許係
山本 健治さん

昨年の近江八幡市内の事故発生件数は159件(前年比-97件)、死者4人、負傷者は200人(重傷18人・軽傷182人)となっており、前年よりも減少していますが、交通死亡事故や重傷事故の割合は高くなっています。

近江八幡市の交通事故の特徴として、50代の人の交通事故が最も多く、事故原因として動静不注視が一番の原因となっているため、周囲の車の動きに注意した運転を心掛けてください。

また、あの車は止まってくれるだろう、あの歩行者は道路を横断しないだろうといった「だろう運転」は事故を起こしやすいので、あの車は止まってくれないかもしれない、あの歩行者は道路を横断するかもしれないといった「かもしれない運転」を心掛けたいので、安全確認をしっかりと行い、悲惨な交通事故を1件でも減らしましょう。

特集

考えよう、交通安全のこと

春になり、新しい生活がスタートした人も多いのではないのでしょうか。新入学や新入園の子どもたちが慣れない道を通り、転勤や就職などで運転に不慣れな人が増える時期です。今回は、市内で交通事故防止のために活動する皆さんを紹介します。この機会に交通安全への意識を高めてみませんか。



アイデア駆使し 一人でも多くの 交通安全意識を高める



近江八幡地区交通安全協会 会長
上阪 廣子さん

昭和49年、近江八幡地区交通安全協会に入会。以降、会社を営む傍ら、交通安全の啓発に取り組み、48年目を迎える。平成11年から同協会副会長、平成20年には同協会会長に就任。平成29年から滋賀県交通安全協会の副会長も務める。

近江八幡地区交通安全協会は、警察や本市・竜王町と連携して、交通事故のない安全で快適な交通社会の実現をめざして、さまざまな啓発活動を行っています。協会員は11支部で構成され、各支部から参加するボランティアの皆さんが活躍しています。

上阪さんもそのボランティアの一員として、今年で48年目を迎えます。少しでも近江八幡警察署管内の交通事故抑止のためになればと活動されています。

一年を通じて 多岐にわたる活動を展開

春や秋の全国交通安全運動はもちろん、一年を通じてさまざまな活動をしています。5月は、「自転車安全利用月間」として、市内の各小・中学校や高校で自転車を利用する児童、生徒に啓発します。また、「交通安全子ども自転車大会」を開催し、自転車の安全な乗り方などを競います。「夏の交通安全県民運動期間」に合わせ、交通安全を願う七夕啓発や街

頭啓発を実施しています。10月頃には、高齢者世帯宅へ訪問し、啓発品を渡しながら、交通安全指導を行います。飲酒の機会が多くなる年の瀬には、飲酒運転防止の啓発も。

そのほか、毎月1日・15日は交通安全日として各支部の危険箇所立ち、通園・通学児の安全を守るため、旗を持って啓発。また、子どもたちや高齢者へ交通安全教室なども実施しています。

さらに、地域からの要請を受けて、信号機のない横断歩道にパトライトを寄贈し、住民の皆さんの安全を確保しています。子どもを巻き添えにした悲惨な交通事故が全国や県内でも頻発するなかで、横断者の安全を守るために、幼稚園や保育所などに横断旗も寄贈しました。

ひらめきをカタチに

「人の心を動かすような啓発をして、交通安全の意識をもってもらいたい」と上阪さん。例えば、チラシだけでなく、工夫を凝らしたメッセージや啓発品を渡す

Interview — 交通事故防止活動への思いとは

企業における安全運転管理の充実を図るため、さまざまな活動を展開する近江八幡地区安全運転管理者協会。県内に12地区ある中の一つで、道路交通法に基づき選任された安全運転管理者が参加し、近江八幡警察署管内（本市と竜王町）では194の事業者が入会しています。

「行政や警察署、近江八幡地区交通安全協会とで組織する近江八幡地区交通安全対策会議の活動が中心となります」と話す西野さんは、近江八幡地区安全運転管理者協会の会長となり今年で18年目を迎えます。

事業所ならではの啓発を

春の交通安全運動期間には、各事業所前で出勤時間帯に旗を持って啓発します。また、各事業所に入社した新入社員を対象に、「ヤングドライバー・セーフティ・スクール」を開催。近江八幡自動車教習所で、教習所の教官、警察署職員による講義や路上教習を受講することにより、改めて、交通ルールの確認と交通安全への意識を高めています。

また、他県の安全運転管理者協会を訪問したり、県内外の体験型施設での交通研修を実施するなど、交通安全への知識を深めています。

近江八幡地区交通安全協会とともに、秋の交通安全運動期間中に開催される近江八幡地区交通安全フェアでは、交通安全への取り組みが顕著な事業所を表彰。9月・12月には、県下で一斉に実施される無事故・無違反コンクールに参加。これは、各事業所でチームを作って参加し、100日間無事故・無違反を達成すれば、表彰されるもので、昨年は近江八幡地区だけで5千人以上が参加しました。参加人数は県内で大津市に次ぐ2番目となり、「近江八幡地区の交通安全に対する意識は高い」と西野さんは話します。

「交通安全の活動は一人では取り組んでも何もできません。啓発も一人では立つことは効果が薄くなります。みんなで立つことで目に付き、一人でも多くの人の心に啓発を届けることができれば」と願います。

時、喜んで受け取っていただく顔を見ると、次はどのような啓発をしようかなとすぐにアイデアを考え始めるといいます。

ある時、工事現場に置かれている力工の絵が描かれた柵を見て、ひらめいたのが「無事力工」。緑色のかわいいカラーの文字が一字ずつ書かれた看板が、市内の交通事故が多発する場所に設置され、ドライバーの目を引きまします。

交通安全は一人の力 では実現しない

「交通安全の活動は一人ではできません。日々のボランティアの皆さんの協力にいつも感謝しています。また、こうした啓発には、免許更新時にご協力いただく交通安全協会費やさまざまな賛助会費などで運営させていただいています。市民の皆さんは、交通安全意識を十分にもっていただき、交通事故に遭わないように、また、事故を起こさないように注意してください」と上阪さんは呼びかけます。

まずは自分たちの職場から 事故を無くす

「会社の車に乗るということは、その時点でプロとしての運転が求められるます。プロとしての運転意識を高め、責任をもって運転をしてほしい」と話す西野さん。

「企業の管理責任や社会的責任の重要性を強く認識したうえで、会員みんなが一致団結し、さらに警察をはじめとした関係機関団体などの連携を深め、交通事故の撲滅に取り組んでいきたい。まずは、自分の職場から事故を無くす、そして、近江八幡市内、滋賀県内、全国と事故を無くしていくことができれば」と交通事故のないまちを願います。

「近江八幡市は観光のまちで、八幡堀周辺には大勢の観光客が訪れます。市民の皆さんが観光客を温かく見守り、人にやさしい運転を心がけてくださいね」

企業の管理責任・ 社会的責任を認識し 交通事故撲滅を目指す



近江八幡地区交通安全管理者協会 会長
西野 信司さん

会社役員を務める傍ら、平成15年から同協会会長となり、今年で18年目を迎える。平成元年から安全運転管理者。平成20年からは滋賀県安全管理者協会の副会長も務める。

スクールガードの3種の神器



遠くからでもよく目立つように、黄緑色のベストと帽子を被り、交差点に立ちます。子どもたちが横断歩道を渡る時は、車から見えるように横断旗を広げます。

※学区により、色やデザインは異なります。

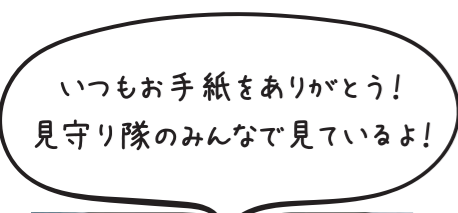


登下校時に子どもたちに話しかける辻さん。あいさつだけでなく、子どもたちの表情や心の変化にも注意しながら声かけをされています。

子どもの交通安全

小学校通学路のスクールガード

点が線に、そして面へと広がる見守りの輪



市立金田小学校スクールガード 子ども見守り隊代表

辻正三さん

1940年生まれ。西本郷町在住。平成16年からスクールガードに携わり、今年で18年目。現在は、金田小学校区19自治会すべてが参加する「スクールガード子ども見守り隊」の代表を務める。

「おはようー」「いってきますー！」朝の住宅街に元気な声が響きます。
 トレードマークの黄緑色のベストに帽子を被り、住宅街で子どもたちの通学路の安全を見守るのは、西本郷町在住の辻さんです。
 20年前に、日本の各地で小学生に危害を加える事件が相次ぎ、自分も地域の人たちのために何かできないかと考えていたところに、金田小学校からスクールガードの協力要請を受けた辻さん。「地域の子どもは地域で守ろうー」を合言葉に、自治会や学区の老人クラブ、保護者などと協力して、平成18年に隊員60人からなる「西本郷子ども見守り隊」を結成しました。
 金田小学校の約900人の児童のうち、8割ほどが利用する同町の通学路で、雨の日や雪の日も、毎日のように交差点に立つ辻さんたち。「おはよう」「気を付けてね」「おかえり」などの優しい声かけに子どもたちは「おはようございま

す！」「ただいま！」など元気よく答えます。中には、「おっちゃん、今日はこんなことがあったよ」と学校のできごとを話してくれる子もいるといいます。
 西本郷という一つの町から始まったスクールガードは、次第に地域へと広がり、今年の4月からは学区内の19自治会すべてで約680人が「スクールガード子ども見守り隊」として活動をするまでに至りました。
 点が線に、そして面へと広がる見守りの輪。辻さんは「自分一人では何もできません。地域や保護者の皆さんのご協力があってこそその取り組みです」と感謝の気持ちをおぼえています。
 最近では子どもたちからお礼の手紙が届くことが多くなったといいます。「子どもたちとの言葉と心の交流が、活動のエネルギー源。身体が元気なうちは、交差点に立ち続けたいと思っていますが、このような活動をしなくてもいい世の中になるといいなと思います」



高齢者の交通安全

オブジェ

車の運転を *Objet* で見直してみませんか？

加齢による視力の低下や判断・処理能力の衰えなど心身の変化により、車の運転に不安を感じていませんか。滋賀県警察では、県内在住の65歳以上の高齢ドライバーを対象に、自身の運転技能をセンサーやGPSを使用し、コンピューターで評価する「運転技能自動評価システム Objet(オブジェ)」講習を実施しています。

今回は、安土学区生活支援グループ「ともに」で買い物支援や病院への送迎など、地域住民の生活支援活動に取り組む岩下さんに講習を体験いただきました。

STEP 01 オブジェ講習の説明、センサーの取り付け

警察署の職員が、講習の説明を行った後、受講者の頭部やアクセル・ブレーキを踏む右足、車にセンサーを取り付けます。



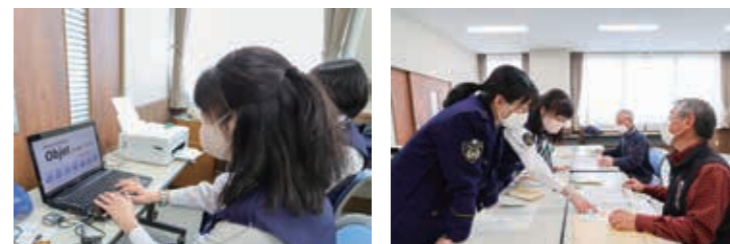
STEP 02 車で指定コースを走行

講習で走行するコースは、警察署から出発して約20分走行し、警察署へ戻るコースです。講習日までに走行するコースの地図が配付されるので、当日までにコースを覚えておきます。



STEP 03 診断結果の説明

走行時に取り付けしたセンサーのデータを警察署職員が計測します。診断結果はA～Eの5段階評価で、棒グラフや折れ線グラフで表示し、左右の安全確認の深さやタイミング、確認時間など、運転習慣や癖を知ることができます。



体験を終えて

普段、何気なく自動車を運転していましたが、運転習慣やクセを客観的に見ることで、自分の運転を見つめなおすいい機会となりました。

「ともに」の支援の中には、自分で買い物にいけない人への支援や病院への送迎などで車を使用することが多く、運転する時は細心の注意を払っています。今回の体験を、日々の支援活動に生かしたいと思います。

オブジェ講習の受講者を募集

車の運転を見直してみませんか。車の運転に不安を感じている人や、自分の運転の癖を知りたい人など、体験を希望する人は、お気軽にご連絡ください。

対象者 65歳以上の高齢ドライバー
講習日時 平日の午前9時～午後4時のうち1時間程度
集合場所 近江八幡警察署

受講者のマイカーを使用します(任意保険未加入車は不可)。また、講習当日はご家族などの同乗者が必要です。

申・問 近江八幡警察署 交通課 ☎(32)0110

安土学区生活支援グループ「ともに」

岩下 明さん

